

## 『老病死を生きる』の法話から建築を考える。

私は、浄土真宗大谷派の檀家です。私の先祖の供養をしていただいている住職さんの薦めで、お寺に法話を聞きに行きました。その法話のテーマが「老病死を生きる」でした。

その法話の内容は、「人間は、死ぬことを前提に、生まれて来るのです。病は必ず掛かるのです。死は必ずやって来るのです。」以上の様な内容ですが、普通人は老いを嫌い、若さを求めます。人は病を嫌い、健康を求めます。人は死を嫌い生を求めます。しかしそれは人の都合と言う物だと仰っていました。

そして次の様にも仰っていました。今の日本人は、昔と比べ非常に不都合に弱くなっているとお話になっていました。その一つ表れが子供達の体力低下に繋がっているのですと仰っていました。大人の作った遊び（ゲーム機等）で体力が無い子供たちに成るべくして成ったのだとお話されていました。【人は勝手な生き物です。と言うのが法話の主な内容です。】

私達は今温暖化と言う環境問題に遭遇しています。しかしよく考えて見ると、人間が自然界に及ぼした影響で、成るべくしてなってしまったと思います。便利さつまり人間の都合の良さばかりを追い求めてきた結果だと私は思います。

ところで福田首相は所信表明演説で2000年住宅について言及されていました。この2000年住宅に対する福田首相の考えに建築士さんも賛否両論有ることは、多少知っているつもりです。それも解った上で、所信表明とは、首相として大まかなビジョンを述べたに過ぎず、各論は国民一人一人が、これは正しい、これは間違っていると、発言すれば良いのだと思っています。

私はあくまで材木屋の立場から『老病死を生きる』という発想と福田首相の考えをミックスして、建築を取り巻く状況を考えて、これから行うべき事は次の3点だと思っています。

- 1、現在日本に有る木材資源（所謂植林木）を上手く活用して、とりあえず伐採時期に来ているスギ・ヒノキを主体に使う。
- 2、光合成を十二分に発揮していない森林を、間伐して光合成が活発な森林にする。
- 3、1及び2が出来たら森林を元の自然の森林に近い条件に戻す。森林は自然の法則でどの斜面に何の木が生えると決まっています。

上記の1~3を実行して、人間の都合ではなく自然の都合に合わせた森林にするのにおそらく早くて100年遅ければ250年かかるでしょう。しかしこのまま手を拱いていれば、永遠に本当の幸せは来ません。多少の辛抱も必要だと思っています。

辛 → 幸

辛抱の辛の文字に横に一を入れれば幸せの字に変わります。（一を入れるのが我々日本人の仕事だと思っています。）

# 温暖化対策について一歩前進ですね



上記の新聞は2007年10月17日の読売新聞の夕刊の一面に掲載されていた記事です。私はこの記事が掲載された次の日に、インターネットでこの記事について検索しました。もう既に賛否が分かれた事がネット上に掲載されていました。

賛否は当然分かれるのは、当然と言えば当然です。我々木材を扱っている者でもおそらく賛否は分かれると思います。しかしながら材木屋の目線で考えるのではなく、あくまで自然の立っている木『話すことが出来ない自然の木』から見れば、今回の政策の方針は決して間違っていない当然の事ではないかと想像します。というのは例えば、ロシア産の赤松の垂木を例に出します。たかが垂木と思われがちですが、この垂木に使われる原木の樹齢は200年位の材です。

日本国内にはヒノキ、スギの垂木材が有るにも拘わらず、何故アカマツを使うのですか。私はその理由はこうだと思います。

国産材の垂木に用いられるヒノキ原木の樹齢→おおよそ80年

ロシア産の垂木に用いられる赤松の原木の樹齢→おおよそ200年

120年の違いが使い勝手に出る。赤松の方がヒノキより捻れが多少、出にくい。(先々月の服部新聞第19号参考記事・年輪が細かい原木で製材した製品の方が品質は良い。)

上記の用に書いたのは、現在の建築の現場が効率(時間)だけを追い求めねばならないように見えるからです。

しかし本当はこうです。日本のヒノキの方が赤松より耐久性があります。水分に対する耐久性、曲げに対する耐久性も日本のヒノキの方が上です。しかし何故ヒノキの方が嫌われるかは、手間とかの効率ばかりを追い過ぎた為に起こった現象だと思います。赤松の方が確かに使いやすいとは思いますが是非国内産のヒノキを使って頂きたいと思います。

ところで200年住宅の200と言う数字は、目標と言うより、スローガンの数字だと思います。まず地球温暖化対策の為の第一歩と思えば良いのだと思います。

200年住宅の心、つまり、もったいないと言う志を忘れずに、この政策が間違いのない方向に導くのも我々国民全員の責任だと思います。

**(木材の使い方の理想は、その場所に生えている立ち木で家を作る事。→本来が一番長持ちする家になります。)**

# アメリカ広葉樹の使い方その 1（等級編）

この間ウオールナット材の、内装材の引き合いを頂いたのですが、サイズを見てお断りしました。その理由は等級にあります。先方から言われたサイズは長さ4000ミリ巾120ミリ厚み40ミリでした。一応上小節とは書いていましたが、このサイズをウオールナット材では、無理です。その理由を等級ルールから説明します。

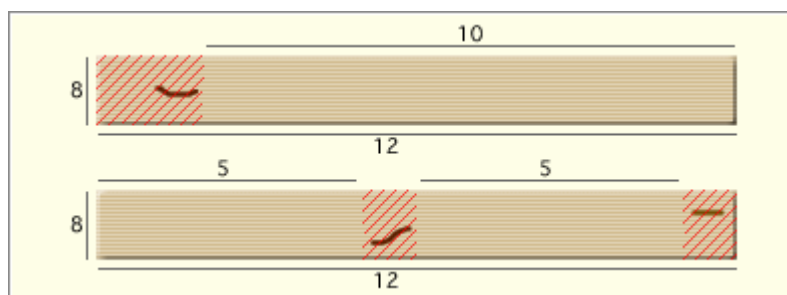
ウオールナット材が内部造作材に使う場合、例に出します。

日本には FAS/1F がもっとも多く使われ、輸入されています。FAS/1F とは板材の両材面を使用して格付します。良好な材面は、FAS の基準を満たしていなければいけません。そして、もう一つの材面は、基本的に NO.1 グレードでなくてはならないのです。

## ■FAS（ファーストアンドセカンド）の基本歩留まり

表 1

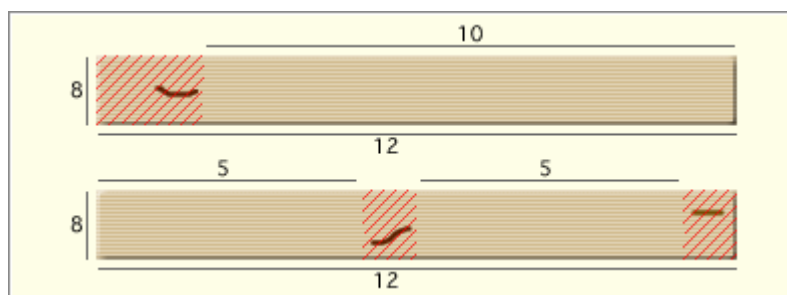
FAS は、幅広く、長く、そしてクリアな材料をユーザーの方に提供します。高級家具、内部造作材、そしてモールドイング用として最適です。FAS は幅が 3 インチ以上、長さが 7 フィート以上、または、幅が 4 インチ以上、長さが 5 フィート以上である 100% クリヤー材をとった場合に、歩留まり 83-1/3% (10/12) となるような板材となっています。



## ■NO.1 グレードの歩留まり

表 2

NO.1 は、幅・長尺共に中程度のクリアな材を提供できる等級です。家具、キャビネット、および、種々のむく材製品のために最適です。NO.1 グレードには、クリヤー材歩留まりが 66-2/3% から 83-1/3% までの範囲の板が入ります。



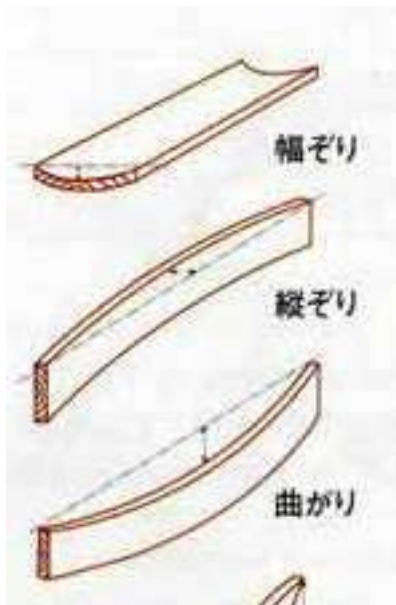
アメリカ材はまるっきり無節の材は、本当に少ないです。特にウオールナットは表 1 を参考に見てもらえれば良いのですが、表 1 の下の材が殆どです。(5 フィート以上無欠点材が殆ど取れない。)

## アメリカ広葉樹の使い方その2と隠れて見えない優れた日本人の技術

アメリカ広葉樹の内ウオールナット以外の樹種で比較的内装材に使いやすい材を順番に上げます。

- 1、 チューリップウッド（イエローポプラ） 比較的無節材が多い。
- 2、 ホワイトアッシュ チューリップウッドについて比較的無節材が多い。
- 3、 レッドオーク 割れが少ないし比較的無節材が多い。
- 4、 ハードメープル この材はシラタ（辺材）しか使えないので、比較的無節材が取れやすい。

大体こう言う順番になります。ただし長さは2メートル40センチ位迄です。それより長い材は継いで下さい。理由は長さ方向で材を見ると縦に反りが有ります。その反りを手押しカンナを掛けて直すのですが、2メートル40センチ以上では、無理です。



左の図は木材の欠点を書いています。アメリカ広葉樹の場合、縦ぞりに関しての、ルールは有ります。（このルールは曖昧です。）そこには少々縦ぞりは、OKとされています。

又一番上の幅ぞりに関しては、厚い盤（厚み2インチ以上）は、多少カップになっており、例えば2インチ材（51ミリ）が仕上がり40ミリでもぎりぎりのケースはよく有ります。

一番下の曲がりも縦ぞり同様、アメリカ材広葉樹は少し位OKなのです。（アメリカのグレーディング上問題無い）

以上の理由で長さ2メートル40センチ迄がアメリカ産広葉樹製材品の使い勝手の悪さです。

一方国内で製材した材と東南アジアの工場（日本人が指導している製材工場）は左記の三点の欠点を生じにくい製材方法を取っています。日本人は昔から日本人の使い勝手に合わせた製材方法を取っています。その方法は法隆寺建立の時代から始

まったと言われていています。だから、何百年も使える、建築物が残されているのが証拠です。

ところで東南アジアの工場を例に上げたのは、日本人が指導した工場の材を見れば、如何に日本人の知恵が優れているかが解ります。マレーシアの木材工場を見ますと、日本向けに出せる工場とローカル向けの工場を見れば直ぐ解ります。日本向けに出せる工場は何処も凄く大きな設備を持っています。ローカル向けの工場は、本当に小さな零細な工場ばかりです。

何故大きな工場になれたのでしょうか。彼らが日本人の指導を心から受け入れて、何処にでも出せる製材品を作れる工場になった事が、彼らに富を齎し、工場を凄く大きく出来たのです。日本のマーケットの状態が思わしくなくても、ヨーロッパ、中近東、インド、中国、韓国何処に輸出しても、良質材と認められる品質の材になったのです。本当に日本人が貢献してきたのです。

東南アジアの各国は、殆ど華僑の人達です。彼らは凄く商売上手です。その商売上手な彼らを成功に導き社会貢献してきたのは、日本人の技術者達の苦勞のお陰です。又中国から現在迄輸出されてきた広葉樹製材品は、アメリカ広葉樹製材品より、圧倒的に使いやすい商品です。その理由は日本人の製材技術を伝承してきているからに、他なりません。

しかし日本人の思うように買える時代は終わったと言えると思います。その訳は、優良材と言われる材は、世界的に枯渇し、多く残っているロシア政府は、原木に対する輸出関税を80%にし木材資源を国家的戦略にしようとしているからです。

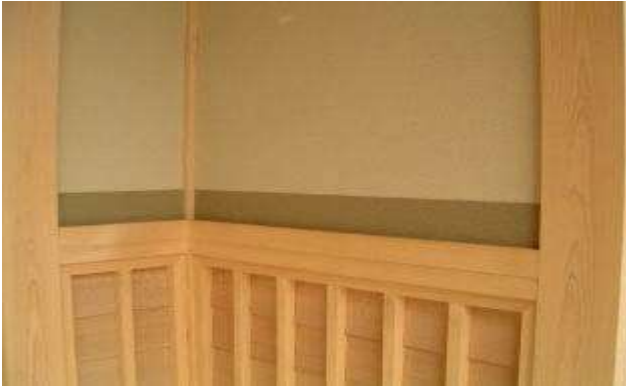
**木材資源を大事に使う時代に入った事は、間違い有りません。**

# 最高水準の日本の建築需要に合わせた製材技術と製材品

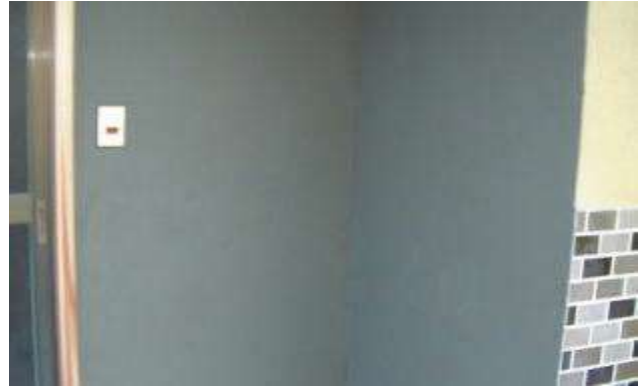
## は使い方に少し問題があるのではないか

日本国内の製材技術は、世界で一番優れていると思います。その理由は殆どの製材品が、用途によって厳密に等級付けが行われ使いやすい製材品として出荷されているからです。

### 真壁



### 大壁



まず最初に見て欲しいのは上記の真壁の中央のチリの部分を見て下さい。チリだけが見えていますが、そこには上小節と言う等級の材が使われています。それ以外の部分は二面見える所は二面無節の材を、三面見える所は三面無節の材を、四面見える所は四面無節の材を使っています。凄く合理的な使い方をしているのです。しかし現在使われている建築の壁は殆ど大壁です。確かに和室が減った事でチリを見せなくても使える建築物になった事は解かりますが、しかしこの大壁を採用した事が、日本の国内の森林崩壊を招いたと考えるのは、考えすぎでしょうか。戦後



我々日本は、高度経済成長のお陰で、世界でも類を見ない国家になりました。しかし森林は森林経営と言う国家戦略の元、天然林を伐採し、スギ・ヒノキの人工林を植林しました。天然林は我々国民の為に凄く、幸せを齎しました。一例を挙げれば、テレビが世の中に出始めた昭和30年代テレビに脚が付いていましたが、その脚はブナ材です。大量に伐採され使われました。その後には人工林のスギ・ヒノキが植林されました。もう伐採時期を迎えている材は大量にあると聞いています。しかし大壁ばかりの建築物では、現在の森林を有効に使うことが出来ないのです。その理由は森林からの恵みは、大きく分けて優良材と並材と二つが有りますが、大壁では、何も見えないのですから並材しか必要としません。そうすると優良材は使えなくなります。しかし森林からの恵みは優良材も並材も両方が生産されるのです。人間の勝手は許してくれないのです。

消費者が真壁が良いとか、大壁が良いとかは実際には、解っていないと思います。解っているとすれば、何で国内に多くの木材資源を持つ日本が、海外から大量の木材資源を買わなければならないのか疑問に持つ位でしょう。私はこの間ある建築士さんに『真壁では洋間が多い現在の消費者の欲しがられる家は建てられないのですか、』と聞きました所、決してそうではない、十二分に消費者の満足してもらえる家は設計出来ますと言う答えが返ってきました。そして重ねて仰っていたことは、これからの物作りは、自然の摂理に応じた物作りを考えていかねばならないなども仰っていました。

# 木材を安く買う方法

木材価格は、需給バランスによって上下します。しかし昭和20年～30年代の様に2倍～3倍にも高騰することは、少ないと思います。しかし、じわりじわり上がってくることは、覚悟しなければならぬと思います。その時多少とも誰でも少しは安く手に入れたいと誰でも思うはずで。しかし何か仕掛けが無いと安く買う事は出来ません。ここでその方法をお知らせします。

例に出すのは造作材です。

1、正確な仕上がり長さを出して下さい。例えば1.95メートルの仕上りのサイズの材が50本必要とします。荒木サイズは5センチ足して2メートルになります。

【見積もりの中で実際使うのは2メートルなのに4メートルになっているケースが多い。】

4メートルと2メートルでは、立法当たりの価格が違う約30%後者が安い

2、仕上がりサイズを少し考えて出して下さい。例えばよく仕上がり32ミリと図面に描いてありますが30ミリにして頂ければ安くなります。その理由をおおよその流通している材と厚みが解る表を下記に明記しますので参考にしてください。

サイズ↓樹種→	南洋材	国内広葉樹	北米広葉樹	北米針葉樹
18ミリ	○			○
21ミリ				
24ミリ	○		○ (25 ㄻ)	○
27ミリ		○		
30ミリ	○		○ (32 ㄻ)	○
35ミリ	○ (34 ㄻ)	○ (34 ㄻ)		○
40ミリ	○	○	○ (38 ㄻ)	○
45ミリ	○	○		○
51ミリ		○	○	○ (50 ㄻ)
66ミリ		○		○ (63 ㄻ)

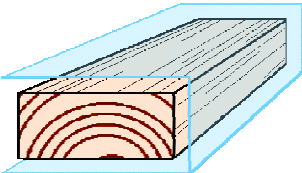
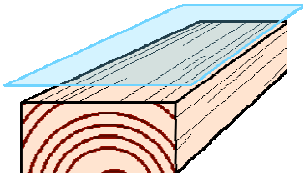
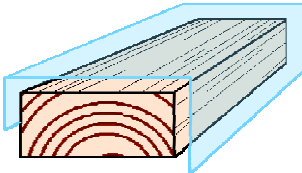
仕上がり32ミリと言う数字は、荒木サイズ37ミリは必要です。しかし37ミリと言うサイズは流通していません。40ミリから落とさなければならぬサイズになります。それを仕上がり30ミリにして頂ければ34ミリもしくは35ミリのラフ材で仕上がります。5ミリが得になるのです。つまり5ミリ分が安く買えるのです。

3、見える所を少し考えて下さい。

三面無節

一面無節

三面無節

		
木表(板目部分)と横面(柃目部分)と木裏が化粧面となる場合。	木表(板目)が化粧面となる場合。	木表(板目)と片側横面(柃目)と、その反対側の角部分(チリ)が化粧面となる場合。

上記は鴨居の等級です。一番左が値段は高いです。二番目は右端です。真ん中が一番安いです。価格差は原木からの歩留まり『取りにくい順番で発生します。取りやすいのが安いのです。』で発生します。

真ん中と両端では価格差は約30%です。

## 集成の構造材と無垢の構造材

一般的に集成材の構造材の方が無垢の構造材より、強度が有りますとお聞きしていますが、ただ単に強度と言う二文字で考えて良いのでしょうか。集成材は石油資源つまり化石燃料を多大に消費します。その化石燃料の消費は、まず集成材の原料は主に外国産ですから、船の燃料に多くの化石燃料を消費します。そして糊で木材を引っ付けていますので、そこに纏わり化石燃料を多大に消費します。又その集成材の残りは所謂産業廃棄物に扱いになります。産廃となれば燃やしたとき、ダイオキシンの問題も発生します。それだけ地球環境に負荷が掛かると思われます。所謂温暖化に拍車を掛けるのではないかと危惧します。

片方無垢の構造材は主に国内のスギ・ヒノキです。森林から工場までそんなに遠くありません。運送の為の化石燃料は集成材より多く消費しません。又糊を集成材ほど大量に消費しませんので、環境負荷は少ないと思います。そして無垢の構造材の残りは、バイオエネルギーの原料になります。と言うことは、無垢の構造材の方が集成材の構造材より、地球温暖化対策に向けた建築資材と言えらると思います。

ところで本年6月20日に改正された建築基準法の問題で、困っている方が多いことは、承知していますし、私も困っています。しかし木材の業界紙には、**本当に困るのは来年の12月からだ**と掲載されていました。その訳は**壁量計算書と接合金物図面の提出が義務化**される事だそうです。私は上記二項目の事は、全く知りません。しかし私が想像出来るのは建築士さんも近い将来もっと困る事が、起こるかもしれないと思った事です。ただでさえ今回の改正で役人の認識不足及び勉強不足、行政の対応の不備が露呈したのですよ。年金問題と同じ位大きな問題ですよ。もう1年しかないのですよ。流暢に構えていたら大変な事が、起こるかもしれません。と思っております。

## 年間 80 万戸の時代は近いのか

6月20日施工の改正建築基準法と其れに伴う建築確認申請の手続き変更による混乱で、住宅着工戸数の減少を招いています。しかし最近の着工戸数の減少は昨年度から始まっているのではと、木材の業界紙に掲載されていました。昨年は130万戸建ったのですが、その130万戸は本年度分の需要を先取りしたのではないかと言われているからです。

日本国内は少子化の影響で、もう既に人口は減少傾向にあります。又特に若年人口は今のままだと、減る一方です。そういう状況から、建築に携わる関係者は、10年後の新規着工戸数は約80万戸程度だと予想しています。しかし年金問題とか、国の特別会計の不透明さ、さらには定率減税の全廃とかの諸状況で国民負担の増加ばかりの現状を踏まえたとき、今までとは全く違う政策つまり、信じられる国にならない限り80万戸しか建たない状況になるのは、近いかも知れないと思います。

大手プレハブメーカーもそれを見越してか、解りませんが、日本国全体は人口減少傾向にも関わらず、今も人口が増えている首都圏のみに営業拠点を集中させ、田舎の方から撤退する動きに有ると、建築士さんから聞いた事は有ります。大手プレハブメーカーは首都圏を除いた地域、例えば今まで良かった名古屋地区でも本年の後半は大苦戦して実質はその地域だけの採算を見ると赤字に陥る可能性が高いと言われている。

私は長い目で見たら、本来日本は、80万戸位(約80年~100年持つ家)が適正だと思います。しかしそこまで行くまでには、一波乱も二波乱も有ると思いますが、本当にお施主様から見て欲しがられる家作りを目指す建築士さんに正確な情報をずっとお伝えしたいと思っています。

**中身の有る80万戸を建てて頂きたいと切に願っています。**

## 日本人はもっと自信を持たなければいけない。

経済は日本だけで回っているわけではありません。しかし何から何まで全て、欧米のやり方をすることは不必要ではないかと最近凄く思っています。と言うのは、上場企業は、過去最高の利益を出しています。凄いキャッシュを手に入れているのです。しかし外人投資家の株主は、会社は株主の物だから、もっともっと株主配当を増やせと要求し、潤沢なキャッシュを所得移転の形で従業員に還元出来ないし、又仕方が無く下請け苛めをやっているように見えます。下請け苛めを辞め、所得移転が行われていれば、もっと購買力が増え経済全体が外需依存体質から内需によって支えられる体質に脱皮できたのでは、ないかと思っています。

凄く儲けている企業は沢山あります。しかし亡き橋本総理が始めた金融ビックバン以降全てのルールを、何故欧米のスタンダードに合わせる必要があったのでしょうか。そうしたやり方を取って以降国民全体が幸せになったのでしょうか。そうではないと思います。

国は規制緩和が新しい産業を起こしそして経済は発展して国民は幸せになると言いましたが、本当に規制緩和の恩恵が、我々日本人1億2000万人に幸福を齎したのでしょうか。例えば雇用契約の規制緩和は、何を齎したのでしょうか。正社員の日本の会社システムから、派遣社員ばかりの会社システムに変わり、それがワーキングプアを齎したのではないですか。又福祉の民間開放の政策を施しましたが、本来福祉事業と言う公共サービスでお金を儲けても良いのでしょうか。昨今の犯罪が多発して、幼い子供たちの命が危険に晒されています。この現象は何故起こったのでしょうか。一度立ち戻り考え直す良い時期にきているのでは有りませんか。

ところで最近聞いた話で凄く気になった話があります。その話はある家族で長老のお祖母さんが亡くなったのですが、葬式もせず斎場へ遺体を出し、骨上げもせずに帰る家が現れたと、お寺での法話で聞いた事です。『この家族は決してお金に困っていないそうですが。』私はこの話を聞いて凄くショックを感じました。このままにしていたら日本の文化も歴史も崩壊し、やがて日本人2000年の歴史が終わってしまうのでは無いかと思いました。

日本人には日本流のやり方が有り、良い所は、伝承し時代に合わなくなったシステムも、欧米の真似をするのではなく、日本人流の方法でやって行くのが正しいのではないのでしょうか。

私は一介の木材業者です。しかし心の中から木を愛し、それを使って頂く為のお役にしか立てません。

今月号が8ページにも長くなって読みにくくなったかも知れませんが、服部雅章と言う人間がどう言う考えで、どう言う風に木材を扱っているのかを、理解して頂けたらと思いました。それで凄く長い文章になってしまった事をお許し頂けたらと思ひペンを置きます。



左記の写真は米ヒノキのカウンター材を製材で反りを直している所です。  
これが味吉兆のカウンターになった材です。